平成 28 年度（2016 年度）

金沢大学大学院法務研究科

入学試験問題

私　　法

C 日程入試

（注意）
１．問題冊子（表紙を含む）は３枚です。
２．問題冊子は指示があるまで開かないで下さい。
３．問題冊子と下書き用紙は持ち帰って下さい。
４．解答は、鉛筆、シャープペンシル、ペン、ボールペンのいずれで記入しても構いません。
５．問題１と問題２の解答は、別々の解答用紙に記入してください。

平成 28 年度（2016 年度）金沢大学大学院法務研究科入学試験問題

試験科目	私　　法

※　問題１と問題２の解答は、それぞれ別の解答用紙を用いること。

問題１　次の事例を読んで、のちの【問１】【問２】に答えなさい。各問は独立のものとし、相互に関係はないものとする。

Ａは、Ｂを代理してＣから事業資金を借り入れるに際し、Ｂの土地に抵当権を設定するために同土地の不動産登記情報（通知書）、印鑑証明書および登記事項や受任者欄が白紙のＢ作成の委任状などの抵当権の設定に必要な書類を預かった。

【問１】

Ａが、Ｃから借り入れた資金を自分の事業資金として使ってしまった場合、Ｂは、自分は金を受け取っていないとして、Ｃからの請求を拒むことはできないか。その結論と理由を述べなさい。

【問２】

Ａが、預かった白紙委任状などを悪用して、Ｂの土地をＤに売却し、登記を移転してしまった。Ｂから所有権移転登記の抹消を求められたＤはこの請求を拒むことができるか。その結論と理由を述べなさい。

問題２　つぎの事例を読んで、あとの【問１】【問２】【問３】に答えなさい。

Ｙ株式会社（以下、「Ｙ社」とする。）は、会社法上の公開会社であり監査役設置会社であるが、上場会社ではない。Ｙ社は、種類株式発行会社ではない。Ｙ社の取締役は、Ａ・Ｂ・Ｃの３名であり、Ａのみが代表取締役である。Ｙ社の株主は、Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅの５名であり、それぞれ２０００株ずつ保有していた。なお、Ｙ社の定款に記載された発行可能株式総数は、３万株である。

平成２７年秋、Ｙ社は、設備投資のため、Ｐ銀行から１億円の融資を受けようと考えた。しかし、Ｐ銀行は、Ｙ社が３０００万円をＹ社自身で調達できれば、７０００万円の融資を行うと述べた。

そこで、Ａは、Ａ自身がＹ社に出資することを考えた。Ａは、Ｙ社株式を１株１万円の価額で３０００株発行し、Ａがすべて引き受けることにした（以下、「本件募集株式の発行」とする。）。本件募集株式の発行については、Ｙ社の取締役会の承認も得られた。なお、１株１万円の発行価額は公正な価額であった。

Ａは、「すぐ返済するから」と約束して、友人のＲから３０００万円を借入れ、本件募集株式の払込期日（以下、「本件払込期日」とする。）に、払込取扱銀行であるＰ銀行に３０００万円の払込みをした。本件払込期日の２日後、Ａは、Ｐ銀行のＹ社の口座から払込金の３０００万円を引き出し、ただちにＲに３０００万円を返済した。

【問１】

本件募集株式の発行に関して、Ａによる３０００万円の払込みは有効な払込みといえるか。最高裁判例の立場をふまえて論じなさい。

【問２】

本件募集株式の発行の効力について論じなさい。

【問３】

ＡはＹ社に対して、会社法上何らかの責任を負うか（会社法４２３条１項に基づく責任は論じないものとする。）。